【 日本文学科　入学前の課題 】

合格おめでとうございます。日本文学科教員一同、四月に皆さんと会えることを楽しみにしています。

しかし、四月までにはまだまだ時間があります。一般入試の受験者がプレッシャーと戦いながら必死で勉強をしているこの期間、すでに合格した皆さんには、入学前準備として当然やっておくべき勉強をしてもらいます。

四月から始まる日本文学科の授業についてゆくためにも、この課題に本気で取り組んでください。提出直前になって一気にやるのでは意味がありません。時間をかけて少しずつ進めてください。

【 提出課題 】

（注意事項）

・課題のレポートの作成は、原則としてパソコンを使用してください。大学入学後は、パソコンを使ったレポートの作成や発表資料の作成が多くなるため、入学前にパソコンによるレポート作成に慣れてください。パソコンを持っていない場合、高校や図書館等でパソコンを借用して作成してください。

・はじめに「日本文学科　入学前の課題」というタイトルと、氏名を記入する。

・課題は、原則として Microsoft Word で作成してください。A4横向き用紙に、縦書きで記入する。十二ポイントの文字。余白は上下左右とも二〇～三五ミリ以内。

・課題の提出は、K-SMAPY という大学のシステムからデータで提出していただきます（メールアドレス宛への直接送付不可／郵送不可）。提出方法については、四月初めに行われる「クラスの集い」の日に説明します。その翌週までに必ず提出すること。

【課題1】

『百人一首』の次の六首について、以下の作業を行いなさい。

＊『百人一首』本文は『新編国歌大観』に拠る。（　）内には歌番号と作者名を示した。

・秋の田のかりほのいほのとまをあらみわが衣手は露にぬれつつ
（一・天智天皇）

・はなの色はうつりにけりないたづらに我が身よにふるながめせしまに
（九・小野小町）

・心あてにをらばやをらんはつ霜のおきまどはせるしらぎくの花
（二九・凡河内躬恒）

・めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲がくれにし夜はの月かげ
（五七・紫式部）

・あはぢしまかよふちどりの鳴く声にいくよねざめぬすまの関もり
（七八・源兼昌）

・きりぎりす鳴くや霜よのさむしろに衣かたしきひとりかもねん
（九一・藤原良経）

1、次のように品詞分解をしなさい。用言は活用の種類と活用形を、助詞は種類を、助動詞は意味と活用形を書きなさい。

【例】むかし(名)男(名)あり(ラ変・連用)けり(過去・終止)

2、古語辞書を用いて単語の意味を調べ、1で行った品詞分解に即しつつ、自分で現代語訳しなさい(直訳)。

【例】昔、男がいた。

3、指定した注釈書のうち二冊と比較し、自分の現代語訳との違いおよびその違いの生じた理由を述べなさい。

4、六首のなかから歌枕をすべて指摘し、その歌枕の所在地(都道府県)・歴史(どのような場所として知られていたか)・イメージ(和歌に詠む場合、どのようなイメージを喚起する場所だと考えられていたか)をそれぞれ具体的に説明しなさい。

5、六首のなかから一首を選び、その歌の魅力を述べなさい。その際、しっかりと注釈書を参照した上で、自分が感じ取れたことを述べなさい。

※一〇〇〇文字以上。

【指定注釈書】

・有吉保『百人一首』(講談社学術文庫、一九八三年)
・鈴木日出男『百人一首』(ちくま文庫、一九九〇年)
・島津忠夫『新版百人一首』(角川ソフィア文庫、一九九九年)
・谷知子『百人一首(全)ビギナーズ・クラシックス日本の古典』(角川ソフィア文庫、二〇一〇年)

【課題2】

國學院の日本文学科には「伝承文学専攻」があり、國學院でしか学ぶことができない民俗学と日本語学・日本文学の複合した領域を学ぶことができます。民俗学は高校までに触れることのない分野です。次の民俗学の入門書を通読した上で、以下の課題に取り組み、大学での学びや専門分野への学びに備えてください。

・新谷尚紀編著『民俗学がわかる事典』
(角川ソフィア文庫もしくは日本実業出版社)

1、本書の第一章から第十二章までの約一五〇項目の中から、自分が興味・関心を持った項目を一つ選び、そこに記載された内容と関連する事例(たとえば、各地に伝承されている祭り、行事、風習、伝説など)を集めて記しなさい。

事例の収集にあたっては、図書館の郷土資料コーナーなどで調べなさい。関連する博物館・資料館の展示で学んだ内容や、関連する場所・行事(神社、伝説地、祭り)に行って直接観察した内容、関係者に聞き取りした情報なども収集事例として扱ってもよい。

※最低五事例は書き出すこと。
※引用・参考にした図書は出典を明記すること。

2、1で選んだ項目の文章を読んで感じたことや、自分で集めた事例を踏まえて考えたこと、気づいたことなどを述べなさい。
※二〇〇〇文字以上。

〔推薦図書〕 新入生のための推薦図書リスト

課題以外にも出来るかぎり多くの本を読んでください。日本文学科の教員が選んだ推薦図書を次に記しました。予定のない日は、図書館に行くことをお勧めします。日本文学科の授業は、図書館を使う作業が多くなるため、図書の分類に慣れることも大切です。

石黒圭『日本語は「空気」が決める』光文社新書
山口仲美『日本語の歴史』岩波新書
原沢伊都夫『日本人のための日本語文法入門』講談社現代新書
白石良夫『古語の謎』中公新書
小林隆『方言が明かす日本語の歴史』岩波書店
金田一春彦『日本語 新版(上・下)』岩波新書
益岡隆志 編著『はじめて学ぶ日本語学 ことばの奥深さを知る15章』ミネルヴァ書房
菊地康人『敬語再入門』講談社学術文庫
渡部泰明『和歌とは何か』岩波新書
西條勉『千と千尋の神話学』新典社新書
梅棹忠夫『美意識と神さま』中公文庫
竹内正彦『2時間でおさらいできる源氏物語』だいわ文庫
野中哲照『平家物語 解剖図鑑』エクスナレッジ
小松英雄『徒然草抜書』講談社学術文庫
益田勝実『火山列島の思想』講談社学術文庫・ちくま学芸文庫
今田洋三『江戸の本屋さん 近世文化史の側面』平凡社ライブラリー

西山松之助『江戸文化誌』岩波現代文庫
棚橋正博ほか編『江戸の戯作絵本』①~③ ちくま学芸文庫
中村正明・山脇麻生『蔦屋重三郎と江戸の黄表紙』時事通信社
安藤宏『「私」をつくる 近代小説の試み』岩波新書
十川信介『夏目漱石』岩波新書
倉阪鬼一郎『怖い俳句』幻冬舎新書
倉阪鬼一郎『怖い短歌』幻冬舎新書
折口信夫『日本文学の発生 序説』角川ソフィア文庫
上野誠『折口信夫 魂の古代学』角川ソフィア文庫
柳田国男『日本の祭』角川ソフィア文庫
柳田國男『妖怪談義』講談社学術文庫

池田弥三郎『日本の幽霊』中公文庫
石井正己『『遠野物語』を読み解く』平凡社新書
松谷みよ子『民話の世界』講談社学術文庫
芳賀日出男『写真民俗学』KADOKAWA
小川直之『日本の歳時伝承』角川ソフィア文庫
小川直之・関沢まゆみ・藤井弘章・石垣悟編『日本の食文化』全6巻　吉川弘文館
今井凌雪『書を志す人へ』Ⅰ・Ⅱ　二玄社
名児耶明『書に心よせる　美術館へ行こう』新潮社
名児耶明『書の見方』角川選書
今井むつみ『学びとは何か―〈探究人〉になるために』岩波新書
竹内敏晴『教師のためのからだとことば考』ちくま学芸文庫
温又柔『台湾生まれ　日本語育ち』白水社